

教員名	杉橋 やよい (SUGIHASHI Yayoi)
所 属	ジェンダー研究センター
学 位	Ph.D. in Census and Survey Research (The University of Manchester)
職 名	講師
URL/E-mail	http://devgen.igs.ocha.ac.jp/professor/sugihashi.html/ yayoi_s@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

ジェンダー / 統計 / 賃金・収入 / 格差 / 差別

◆主要業績

総数 (11) 件

- ・独立行政法人国立女性教育会館・伊藤陽一編 (2006) 『男女共同参画統計データブックー日本の女性と男性 2006ー』ぎょうせい (第4章「労働条件」と第11章「意思決定」を担当)
- ・金子治平・杉橋やよい・山下裕歩 (2006) 「正規・非正規雇用の年間所得格差の分解」大阪市立大学『季刊経済研究』第28巻第1号, pp.19-32.
- ・Sugihashi, Y. (2006) “Examination of Unequal Income between Women and Men in Japan and Korea”, The 9th International Interdisciplinary Congress on Women, Seoul, Korea

◆研究内容

1. 「ジェンダー統計視点による男女間所得格差の国際比較研究ー「男性稼ぎ主」型を考えるー」という研究は、平成17年度～19年度の間、科学研究費補助金若手研究B (研究代表者：杉橋やよい) の助成の下で、進めている。2005年度には、平成4年、9年、14年の就業構造基本調査の個票データ (リサンプリング・データ) を用い、急速に変わりつつある労働市場と賃金体系のもとで、性別所得格差とそれを規定する要因の変化等を分析し、また、平成元年、6年、11年の全国消費実態調査の個票データを用い、妻の家計への貢献度を分析し、リサンプリング・データ報告集会 (財団法人統計情報研究開発センター主催) で発表をした。
2. 近年ますます注目されつつあるジェンダー統計に関しては、日本における「ジェンダー統計の現段階と課題」をまとめ、『統計学記念号第4集』に掲載した。総務省統計研修所、JICA、NWECCなどでジェンダー統計に関する講師を務めた。
3. お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティアー<女><家族><地域><国家>のグローバルな再構」の下で、中国のパネル調査のうち、家計の収入について分析をし、韓国の収入データを用いて、韓国ソウルで開かれたWomen's World 2005において“Examination of Unequal Income between Women and Men in Japan and Korea”で報告した。

◆教育内容

- 本学大学院 (開発・ジェンダー論コース) で2科目を担当した。
1. ジェンダー論特別講義 (後期、伊藤り教授と共同担当)。ジェンダー・センシティブな統計 (ジェンダー統計) は、女性と男性の現況や格差 (そして差別) をもたらす根源を確認し、政策立案に貢献し、さらに進捗状況を監視することに貢献できる点で、近年注目されている。統計がよりジェンダーセンシティブになるためには、統計生産、統計利用・分析、統計制度すべてにおいてジェンダー主流化を進め徹底することが必要条件になる。本講義では、与えられた統計数値を鵜呑みすることなく、批判的に統計を利用できるスキルを身につけるために、①統計の機能と役割、統計の生産過程、統計制度に関する講義を6回行い、②受講生と相談した上で、法政大学日本統計研究所 (2001) 『統計と人権および開発ーIAOS2000をめぐってー』研究所報, No.27の文献を輪読し、GDIやGEMについて批判的に検討し、③SPSSを用い簡単なマイクロデータ分析も実習した。
 2. 国際協力論演習 (後期、伊藤り教授・熊谷知圭教授と共同担当)。タイにあるアジア工科大学院大学で行われる2005年度の「ジェンダーと開発」ワークショップに向けての事前学習および現地でワークショップのサポートをした。
 3. その他では、地域、総務省統計研修所等で講義をし、またタイのアジア工科大学院大学でも客員教員として講義をもった。

◆Research Pursuits

My main research is (1) gender differentials and discrimination of wage and income, in Japan and Britain, (2) gender statistics in Japan and ESCAP region, and (3) analysis of panel data conducted by Frontiers of Gender Studies, the 21st Century COE Programme, Ochanomizu University.

Regarding (1), I have awarded JSPS Grant (Encouragement of Young Scientists(B)) for 2005-2007, to investigate unequal income in Japan and compare with other countries. It aims to provide the basic data for considering living wage, minimum wage to eradicate unequal income/wage between women and men.

About (2), I have identified the present situation of activities and research on gender statistics in Japan and propose how to move on forward to enhance gender statistics in terms of the both sides.

◆Educational Pursuits

I taught 2 subjects in the course of "Development and Gender", graduate school in our University.

(1) "Special Lecture on Gender Studies" (with Prof. ITO Ruri): Its main objective was to learn what is gender statistics, how gender statistics can be produced, what is weakness of GDI and GEM.

(2) "Seminar on International Cooperation" (with Prof ITO Ruri and Prof. KUMAGAI Keichi): We supported post graduate students who attended "Gender and Development Workshop" conducted by Gender and Development Studies (GDS), Asian Institute of Technology (AIT), Thailand.

(3) Apart from the teaching in our University, I gave lectures on gender statistics in Japan, such as in local governments, NGOs, and Statistical Research and Training Institute, Ministry of Internal Affairs and Communications. I also gave lectures on "Gender, Technology and Economic Development", as a visiting faculty, at GDS, AIT.

◆共同研究例

・独立行政法人国立女性教育会館の「ジェンダー統計に関する調査研究プロジェクト」（2004年10月～2005年3月）の委員として、共同研究を行い、『男女共同参画統計データブック 2006』を発行した。

・JICA、カンボジア王国ジェンダー政策立案・制度強化支援計画技術協力プロジェクト国別研修においては、独立行政法人国立女性教育会館の担当者のサポートをしつつ3回の講義を行った。

◆将来の研究計画・研究の展望

(1) ジェンダー視点から賃金/所得の絶対的水準と相対的格差（男女間、同性間、夫妻間）の両方を分析するので、男女が共に自立した労働者として生活可能な賃金/所得を得ているかを検討していきたい。(2) 賃金/所得について、労働と生活そしてジェンダーの視点から関連付けて、検討したい。(3) 共働き男女の賃金/所得に着目しているので、「男性稼ぎ主」型あるいは「両立支援」型の強弱の検討をしたい。(4) 個人と世帯の所得の関係をジェンダーの視点から検討し、リビング・ウェイジやベーシック・インカムなどの政策論議に結びつけつつ、労働力の持続的再生産のための政策に結びつける方向で、分析を進めたい。(5) 労働統計と家計統計のジェンダー統計視点からの検討と国際比較を行う。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

・ジェンダー統計に関して（地域、アジアなど）

◆受験生等へのメッセージ

皆さんは、たくさんの数値を、雑誌、新聞や本の中で目にしていると思います。これらの数値は、どのように得られたのでしょうか。政府が行う統計調査から得られたもの、民間団体が聞き取り調査をしたもの、インターネットや携帯を通じて得られたデータなど、様々あります。

統計は、社会経済現象の数量的側面を反映した数値・データです。統計が正確に現実を反映したものであれば、現実の把握と分析、そして政策策定とその効果の監視に統計を役立てることができます。ただし、我々が使う統計のほとんどが、統計調査という特別な認識過程を経て獲得されたものです。ジェンダーによるバイアスが、統計の作成過程に入りこむ可能性もあります。だから、統計数値を鵜呑みにすることなく、批判的に統計を利用する必要があります。

統計の作られ方、統計の利用の仕方などを、ジェンダーの視点から、検討しませんか。